

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら八幡西 吉祥寺町教室			
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 1日	～	令和7年 11月 30日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18人	(回答者数)	18人
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 1日	～	令和7年 11月 30日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 11月 30日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童に対して、支援員が十分な配置がされており、行き届いた支援や対応が可能である。	・利用児童数に対して、多く職員を配置している。 個別対応が必要な児童に対して、担当職員を決めた対応を行っている。 ・個別支援計画に基づき、一人ひとりの特性や発達段階に応じた支援を実施できている	・児童の様子を細部まで観察し、行き届いた支援を提供していく。 ・職員間で支援方法や関わり方の共有を徹底し、誰が対応しても一貫した支援が提供できる体制を強化する。 ・送迎時の引き継ぎや連絡帳に加え、面談や情報共有の機会を増やし、家庭と連携した支援を強化する。
2	ハウスルールの共通理解のもと、それぞれの職員の特色に合わせて、活動に取り組んでいる。	・ハウスルールの研修を行っている。ハウスルールが定着出来るように朝礼、終礼でその日に支援についてふりかえりを行っている。 ・ハウスルールを文書化し、職員がいつでも確認できるよう掲示・ファイリングを行っている。	・ハウスルールの見直し、新しいルールの追加についても検討していく。 ・日々の支援に対して管理者やリーダーが具体的なフィードバックを行い、支援の質の向上につなげる
3	複数のこどもが少人数のグループで活動しながら、社会性・コミュニケーション・感情調整等を育てている。毎日の終礼でSSTを行っており、場面に相応しい行動を学んでいる。	グループ活動の中で、役割や目標を決めて活動に参加してもらう。 SSTは様々な場面や事例を提供している。また児童にどのような行動をとれば良いのか、ひとりひとりに応えてもらう。また職員がデモンストレーションをしてイメージが湧きやすいように工夫している。	・お出掛けや社会見学等の機会実践の機会を経験していく。またその時の行動について振り返りを行い、向上に努めていく。 ・SSTで学んだ内容を日常の活動場面でも意識的に取り入れ、繰り返し実践できる機会を増やす。 ・場面に応じた適切な行動を分かりやすく提示するため、イラストや掲示物等の視覚的支援を活用する

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域や地域住民との交流機会が少なく、関係性の構築や地域理解の促進が十分に図れていない。また、児童が社会性や公共の場での関わり方を実践的に学ぶ機会も限られている。	・コロナウィルスの感染も重なり、交流が出来ない時期が長くあった。 ・地域のイベントや活動に出向いていった際に、ご迷惑をお掛けしないかと心配があった。 ・相手様に受け入れ体制がとれているか心配があった。	・挨拶運動や清掃活動など、負担の少ない形で地域との関わりを日常的に持つ機会を増やす。 ・地域の自治会や施設に対し、事業所の特性や配慮事項を事前に説明し、理解を得た上で交流機会を設定する。 ・障害理解のある施設や団体、学校等と連携し、受け入れ体制が整っている先から交流を開始する。
2	・保護者との交流機会が限られており、主に半年に一度の面談にとどまっている。	コロナウィルスの感染も重なり、交流が出来ない時期が長くあった。 保護者会等の開催も検討していたが、さまざまな家族形態や仕事で出席が難しい家族もあり、開催までには至らなかった。	・その時の感染症の状況次第ではあるが、家族会や保護者会を開催を検討していく。 ・連絡帳やICTツール等を活用し、日々の様子や成長、課題をこまめに発信することで、保護者との接点を増やす。 ・負担の少ない形(短時間・自由参加)で、行事や活動に参加できる機会を設定する。
3	・職員間で支援に対する考え方に差があり、支援の統一が図れていない場合がある。	児童発達支援管理責任者を中心に、職員会議等の場で話し合い検討していく。 ハウスルールの資料を用い、再度職員で大切にしたい療育に対する考え方を確認する。	・各職員が課題意識を持って支援に取り組めるよう、朝礼および終礼において、その日の支援内容や課題について振り返りと共有を行い、支援の質の向上に努めていく。 ・職員一人ひとりが高い意識を持って業務を遂行できるよう目標設定を行い、その達成に向けて、管理者および児童発達支援管理責任者を中心とした定期的な面談・振り返りを実施し、継続的な成長と改善につなげていく。